

災害派遣だより【4月22日】

被災地において支援

(聞き手：八戸航空基地 広報室)



倒壊した家屋の撤去作業

機動施設隊 1等海尉 相馬秀輔（八戸市出身）

Q1 今日の天気は？

晴れていました。作業をしていると暑くて大変でした。

Q2 今日はどんな作業をしましたか？

わたしは、熊本市東区沼山津の県道232号線で道路啓開（瓦礫の撤去）をしました。

Q3 今日は被災地で初めての活動を行いました、何か思ったことや感じたことはありますか？

断層帯に沿って家屋が倒壊していて、普通に建っている家屋の地域があるかと思えば、周辺一帯の家屋が倒壊しているところがあり両極端で驚きました。

Q4 明日はどんな作業をするのですか？

今日と同じで道路の瓦礫の撤去を行います。道路沿いの家屋の瓦礫を撤去するときは、家の持ち主や自治会長に立ち会ってもらい、どこまで片づけていいのか確認しながらの作業となります。



倒壊した塀の撤去作業

機動施設隊 海士長 佐々木未来（岩手県出身）

Q 1 今日どんな作業をしましたか？

県道232号線の道路の瓦礫の撤去を行いました。

Q 2 作業をしていて何か思ったことや感じたことはありますか？

八戸から2泊3日の行程で移動してきましたが、昨日までは被災地の様子が全くわかりませんでした。今日、倒壊した家屋を目の当たりにして、倒壊家屋が一件や二件のレベルではなく、たくさんの家屋が倒れていてびっくりしました。

Q 3 明日はどんな作業をするのですか？

今日と同じで道路の瓦礫の撤去をします。周りのものを傷つけないように注意を払いながら作業したいと思います。

Q 4 最新の注意を払いながらの作業は、大変ですね。

わたしたちの作業を被災地の方々が見に来ています。やはり、家のことが心配なのだと思います。一日も早い道路の復旧は大切だと思いますが、被災地の方々の気持ちを考えながら早くて丁寧な作業ができればいいなと思います。